特集 思いを語り合う中学生たち

～伝えたい…でも言葉にできない思いがある。それを受け止めてくれる仲間がいる～

今回は、市内の中学校の人権サークルを紹介します。市内では、ここに紹介した中学校以外にも、橋南中学校、南が丘中学校、白山中学校で人権サークル活動を行っています。

一志中学校人権サークルは「ＦＦＣ」といいます。

「ＦＦＣ」とはＦ＝Friendship(友情)、Ｆ=Freedom(自由)、Ｃ=Courage(勇気)を意味しています。普段の活動は人権についてみんなで話し合いをしたり、人権ゲームを通じてメンバーの人権感覚を高めたりしています。「この場なら自分の考えを安心して出せる、ＦＦＣなら自分の気持ちを受け止めてもらえる」そんな仲間づくりを目指しています。そのために、自分の思いを出し合うことを大切にしながら活動しています。

夏休みには中学生学習会の人たちや校内人権フェスタ実行委員会の人たちと一緒に人権フィールドワークを行いました。

昨年は奈良の水平社博物館へ、今年は京都の立命館大学国際平和ミュージアムへ行きました。ガイドさんのお話から「戦争とは何か」ということや「無視された人権」「失われた命の重み」など、みんなが多くのことを学びました。

また、一志中学校区子ども人権フォーラム「明日の一志町の人権を考える子ども会議」では、小学生との意見交換をしながら、縦のつながりづくりをしています。

さらに、地域の高校生や青年による一志町青少年友の会「いい友」との交流を行ったり、手話や点字に挑戦したりしています。まだまだ知らないことがたくさんあるので、ＦＦＣの活動を通じていろんなことを学んでいきたいと考えています。

こうしたＦＦＣの活動を校内人権フェスタで紹介し、仲間を広げ、一志中学校全体に、そして地域に人権の輪を広げていきたいと思っています。

豊里中学校人権サークル(ＳＭＡＰ)

は、２年生を中心に構成されています。発足のきっかけは、１年生当初から行われている、クラスの代表者会議でした。

そこでは、毎回学級の問題が話し合われました。繰り返し話し合われるうちに、どの学級にもよく似た問題があることが分かってきました。そして、「学年全体の問題として考えるべきではないのか」「考える仲間を増やそう」という意見のもと、１年生の２学期から本格的な発信活動が始まりました。

徐々に参加者の人数も増えていき、それと同時に「参加しているみんなが、本気で何かしようと思っているのか」「集まって何が変わるのか」とＳＭＡＰの在り方、自分自身の在り方について問い直すことになりました。

「何もせず、何も考えなければ、何も変わらない。少しでも気付ける、意識できる自分でいることは大切。だからこの集いの場は大切だ」という意見がきっかけとなり、参加理由など、自分の思いを伝え合うところからもう一度スタートすることになりました。

そんなＳＭＡＰは、２年生になった今、24人で活動しています。学級の問題に対して取り組みつつ、今年度は夏休みの「水平社博物館フィールドワーク」など、今の自分たちにできることを探す活動を始めています。人権学習は決して特別なものではなく、自分のすぐそばにある日々の問題であること、その中心に「自分」がいることに、少しずつ気付き始める姿がここにあります。